

思い出の記録 — 会員・留学生からの投稿 —

初めて韓国語講座の講師を始めたときは楽しみ半分心配半分でした。しかし、回数を重ねるうちに、韓国語を学びに講座に来た方の笑顔を見ると、その心配も消えました。勉強にいらした方々は親切で笑顔が印象的でした。いつも韓国に対する関心と情熱を持って学ぼうとする心があり、すでにレベルも優れていてこれ以上教えることがあるかなという気持ちもありました。

今まで韓国語を使っていながら気づかなかった部分や、予想外の質問もあり、逆に私がおもっと学ばされる時間でした。一緒に行った小旅行では、八幡浜のいろいろな所を参加したみなさんと一緒に回りながら観光もして、普段経験できない「ちくわ作り」や「じゃこてん作り」もして、美味しいものをたくさん食べました。この経験は、人生で忘れられない思い出になりました。

韓国語講座を担当するようになったことを誇りに思っており、このような機会を持たせていただいたことに感謝します。忘れられない経験をさせていただいて本当にありがとうございました。

(チョン・ジミン)

私は日本に住んで4年目になりました。

松山・平澤友好協会の韓国語講座には2回参加しましたが、とても楽しかったです。韓国語を一生懸命勉強する方々を見て嬉しくなったり、自分ももっと勉強しなきゃと刺激されたり、いろいろな方と出会い有意義な時間を過ごせました。

特に、講義の場所がコムズの調理室に変わってからは、休憩時間に一緒に韓国の食べ物を作る機会ができてもっと良かったと思いました。楽しかった上に、食文化について会話もできたからです。講義時間のため料理時間は10分くらいと短かったのですが、クラスのみなさんがとても楽しんでいたり、料理についていろいろ聞かれたので少し長めにしたらもっと良いかなとも思いました。楽しい時間を、ありがとうございました。

(カン・ダヨン)

設立10周年記念号

会報

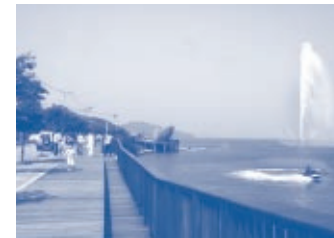
松山・平澤友好協会

ピョンテク

Vol.16
2015

Matsuyama

Pyeongtaek



ただ今、会員募集中!!

あなたも韓国・平澤市と 友好を深めませんか?

韓国や平澤市について関心のある方や、交流してみたいと思っている方は、ぜひご入会ください!

年会費	個人会員	1口	2,000円
	団体・法人会員	1口	5,000円

入会ご希望の方は、下記連絡先までご連絡ください。
入会申込書と納付書をお送りします。

あとがき

当協会の10年の歩みを振り返ってみると、さまざまな行事を通して、平澤市との交流を深めてきたことがわかります。また、運営部の活動はいくつかの変遷がありますが、絶えず次のステップを見据えて試行錯誤しながら、会員の研さんにも努めてきたといえます。行政サイドとの連携により、ここまで運営できたことに感慨深いものを感じています。

次の10年に向けて、平澤市との交流がさらに発展できることを願っています。

(M・H)

ご挨拶



松山・平澤友好協会
会長 鮎川 恭三

2004年10月25日、松山市と平澤市との間で友好都市提携が締結されました。そして、ちょうど1カ月後の11月25日、両市の交流を市民レベルで支える推進母体として松山・平澤友好協会を設立し、この友好都市提携が実のあるものとなるよう活動してまいりました。

当協会がこのような活動を継続し、設立10周年の大きな節目を迎えることができましたのも、会員の皆様はもとより、松山市や平澤市の行政の皆様、韓国からの留学生など、多くの皆様の御支援と御協力の賜であり、心から感謝を申し上げます。

お互いの尊敬と思いやりの心の中で培われる絆は、争いや力では絶てない強い繋がりを生み出します。生活習慣や文化が異なる人々の間で友好の礎を築くには、この尊敬と思いやりの心を育てることが大切です。このためには、お互いを知り、学び、お互いの違いを尊重することが何よりも求められます。

この考えに立って、当協会では、語学講座や文化セミナーなど、趣向を凝らしたさまざまな市民参加型のイベントで平澤市を紹介し、より多くの松山市民に知ってもらえるように努めてきました。

また、協会の事業を通じて得た韓国語や韓国文化を実践する機会として、親善訪問団を結成して平澤市を訪問し、平澤市民と直接ふれあいました。その一方、平澤市民が松山市にお越しになった際には、心を込めたおもてなしで交流を深めてきました。こうした交流の積み重ねにより、高校間の姉妹校提携や修学旅行の受入、大学間の学術協定など、市民交流の輪が広がっています。

この記念号は、これまでの交流を振り返るとともに、会員の皆様の思い出を記録し、次の10年へとつないでいくために発刊いたしました。

これまでの交流を礎に、今後も松山市と平澤市の市民交流が深まりますよう、会員の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

祝辞



松山市長
野 志 克 仁

松山・平澤友好協会設立10周年を心からお喜び申し上げます。

松山市と平澤市は、2004年10月に友好都市提携を締結し、翌11月には貴協会が設立され、ともに平澤市との親交を深めてきました。青少年の相互派遣や、両市で開催されるマラソン大会への選手の相互派遣など、今では、様々な分野に交流が広がり、多くの人々が両市の間を行き交うようになっています。

この間、会員の皆様には、平澤市を訪問し、平澤市民との親交を深めるだけでなく、イベント等を通して松山市民にも韓国や平澤市を御紹介いただいています。松山市と平澤市との友好が深まっているのも、会員の皆様の献身的な活動のおかげであり、深く感謝申し上げます。

今年、日韓国交正常化50周年を迎え、国家レベルでは次の50年を見据えた未来志向の日韓関係の構築に向けて動き出しています。

本市でも、この10年間で築き上げたゆるぎない絆(きずな)をもとに、最も近いアジアの友人として、平澤市との交流をより一層深め、貴協会をはじめ市民や民間団体の交流を後押ししていきますので、引き続き、友好都市交流のけん引役として御尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、貴協会のますますの御発展と、会員の皆様の更なる御活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉とします。

祝辞



愛媛県知事
中村時広

松山・平澤友好協会が設立10周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、2004年の設立以来、松山と平澤の友好を深めるため、両市民の交流活動の支援に御尽力をいただき、本県の国際交流の進展に多大な御貢献を賜っております。

そして、このたび設立10周年を迎えられましたことは、誠に御同慶の至りであり、会長をはじめ会員の皆様方の熱意とたゆまぬ御努力に対し、深く敬意を表します。

御案内のとおり、2004年10月25日に、貴協会設立のきっかけともなりました、松山市と平澤市の友好都市提携が調印されました。当時、松山市長を務めておりました私にとって、海外都市との初めての姉妹・友好提携でありましたが、今後を祝福するような澄み渡る秋晴れのもと、宋明鎬平澤市長とともに、互いの友好発展を誓い合いました。

また、その翌年の11月25日から27日にかけて、友好都市提携1周年を記念し、貴協会の皆様とともに、親善訪問団として平澤市を訪問させていただき、再びお会いした宋市長と、学校同士の交流や文化・スポーツ交流の実施など、両市の絆の更なる深化に向けて親しく話し合ったことを、昨日のこのように鮮明に覚えております。

あれから時が流れ、私の立場も変わりましたが、松山市と平澤市の関係が未永く続き、ますます発展していくことを願う気持ちに変わりはありません。

どうか皆様方におかれましては、設立10周年を契機に、松山市と平澤市における友好交流活動の輪を広げられ、両市の絆を未来につなげる大きな原動力となっただきますことを御期待申し上げます。

終わりに、松山・平澤友好協会の限りのない御発展、並びに会員の皆様方のますますの御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます。

祝辞



平澤市長
孔在光

このたび、松山・平澤友好協会が設立10周年を迎えられましたことを、45万人の平澤市民とともに心からお祝い申し上げます。

貴協会が10周年という節目を迎えるにあたりまして、鮎川恭三会長をはじめ、会員の皆さまの御努力に心から敬意を表したいと思います。

今年度は貴協会が設立10周年を迎えるとともに、松山市と平澤市が友好都市提携を締結して10周年を迎える記念すべき年でもあります。貴協会はこれまで市民交流を通して松山、平澤両市の友好交流の懸け橋となる大きな役割を果たしてこられました。今では青少年交流、マラソン交流、市民団体による民間交流など、さまざまな分野で広く交流が行われています。

私は第6期平澤市長として「大韓民国新成長経済新都市・平澤」というスローガンのもと、平澤市が世界経済の中心を担う都市として成長できるよう誠意と熱意をもって市政に取り組んでいきます。また、両市の友好交流が一層発展し、活発な交流が行われるよう積極的な支援と御協力をお約束します。

最後に、松山・平澤友好協会関係者の皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、松山・平澤友好協会設立10周年を心からお喜び申し上げます。

松山・平澤友好協会設立10周年記念事業

今年度、松山市と平澤市との友好都市提携10周年、そして松山・平澤友好協会設立10周年を迎えたことから、協会では、記念行事を企画し、実施しました。

◆ 平澤市での語学留学及び韓国文化体験ツアーの実施

「今年は交流10周年記念の年!平澤市を訪問して平澤国際交流協会の人たちとの交流と平澤大学校でのプチ語学留学を計画しています」とお知らせを頂いて、これはすごい!!心弾む思いで、参加したいと思い、申し込みをしました。

いよいよ8月22日の出発当日、松山空港で集合。総勢10名(2名は現地集合)が元気に集まりました。いざ出発!!約1時間半のフライト。仁川空港到着は夜7時過ぎ。遅い時間にもかかわらず、平澤市役所のチョさんと平澤国際交流協会のキム事務局長にお迎えに来ていただき、用意して下さったバスで平澤市のホテルまで連れて行ってもらいました。時間のロスもなく直行出来て大変ありがたいことでした。

翌日から平澤大学校で計10時間の韓国語の授業を受けました。わからない単語も多かったのですが、いろいろな方向から説明していただけて理解できた時はとてもうれしかったです。食べ物や文化についての授業では、近い国なので共通点も多くあるけれども、異なっている点が大変興味深かったです。

ホームステイ体験は初めてで、とても印象に残っています。私は6名一組の行動でした。まず、酵素風呂に連れて行ってもらいました。発酵した熱い糠の中に横になり、首までたっぷり酵素糠をかけてもらいます。汗がタラタラ。体も温まり、お肌もつるつるに変身した後、その前の広場でバーベキューをご馳走になりました。広場の道を隔てて田んぼが広がり、稲穂がそよそよ風に揺れていました。夕暮れが深まるにつれお腹も満たされ、ほろ酔い加減。日本語と韓国語取り交えて話が弾みます。カラオケ愛好家のアジヨシ(おじさん)がなんと五木ひろしのファンで「夜明けのブルース」が気に入っていると。みんなでいっしょに「~ここは松山二番町~」と歌いました。夜は幼稚園でのお泊りでした。園児たちのかわいい作品に囲まれてぐっすり寝ました。朝食は、長時間煮込んだカルビタン!大きな骨付き牛が食器からはみ出しています。深いコクのあるさっぱりしたスープでとってもおいしかったです。日本と同じスモモも食卓に。

ソイル農園では豆腐作りなど体験し、試食もしました。とてもおいしかった!韓国ドラマ「神々の晚餐」の撮影地でもあり、みそ甕が2,000個以上も整然と並んでいるのは圧巻でした。蓮池も素晴らしかったです。

平澤国際交流協会の皆さんには、それぞれお仕事をされているにもかかわらず、時間を作って、有り余るおもてなしをしていただきました。愛媛のお接待に通じる文化だと思います。松山に来られたら、再会を喜び合い、心からのおもてなしをしたいと思います。

この交流で出会ったすべての皆様に感謝いたします。(M・K)



松山・平澤友好協会設立10周年記念事業

◆ 松山市での平澤国際交流協会との交流事業の実施

松山市と平澤市の友好都市提携10周年を迎え、2月6日、平澤市から孔在光(コン・ジエグアン)市長をはじめとする一行が愛媛マラソンに合わせて松山を訪問されました。それに伴い、平澤市の平澤国際交流協会の総勢22名の皆様も松山を訪問され、文化交流や様々な体験を行いました。

6日、松山空港で再会を果たし、松山市、松山国際交流協会、松山・平澤友好協会の3者が主催する祝賀会に出席しました。平澤国際交流協会の初代会長、第2期会長も訪問されていて、10年の交流の絆を感じました。

7日は、昨年の夏、私たちが平澤を訪問し交流したご家族や、初めて松山を訪問された方たちと、松山の観光や、ホームステイでそれぞれ親交を深めたり、平澤市のバトミントンチームと、松山のバトミントンチームが親善試合を行いました。

8日は、平澤国際交流協会から愛媛マラソンに参加する金(キム)選手をはじめとする平澤市ランナーの応援団と、内子を観光するチームに分かれ終日を過ごしました。金選手は、3時間2分の好タイムで完走し、その後、道後温泉で汗を流して帰国しました。

今回参加の平澤大学校の教授3名と、保育園長6名は9日に岡山観光をして、10日には社会福祉法人のはばたき授産園と、市立味生保育園を訪問しました。はばたき授産園の理事長とは深い親交があり、味生保育園の園長は、当協会設立10周年で平澤市を訪問したことがありました。

今回の交流では、お互いの国の一人ひとりが深く相手を想い、絆を深めてきた結果がここにあるのだと実感できました。これからも、20周年30周年と交流を深め、近くて遠い国が、もともと近くて近い国、ますます親しい間柄になることを願っています。(A・K)



10年の歩み

2004年

◆ 松山市が平澤市と友好都市提携

松山市と平澤市との間では、市民団体により、相互訪問やホームステイ、セミナーの開催など、10数年にわたり心の通い合う交流が続けられてきました。2000年からは行政間の交流もスタートし、2003年5月には平澤市関係者、同年9月には金善基(キム・ソンギ)平澤市長や市議会の方々が来松し、友好都市提携についての協議が重ねられてきました。そして、2004年10月25日、松山市役所前広場で、中村時広市長や、宋明鎬(ソン・ミョンホ)平澤市長をはじめとする代表団24名、松山市議会議員や市民団体など関係者約140名の出席のもと、松山市と平澤市の友好都市提携の調印を行いました。



2005年

◆ ホッケー愛媛高校女子選抜チームが平澤市を訪問

松山南高校と松山中央高校のホッケー部員で構成する「愛媛高校女子選抜チーム」(選手18名他)が、8月10日から14日の日程で平澤市を訪問し、平澤女子高校とフィールドホッケーで交流しました。韓国は、オリンピックでメダルを獲得するほどのホッケー先進国。中でも平澤市はホッケーが盛んで、平澤女子高校は、韓国屈指の強豪校。交流試合などを通して、同じスポーツを愛する者として、お互いが同じ目線で話し、それぞれの国の文化に興味や関心を持つことができました。



◆ 松山・平澤友好協会設立

松山市と平澤市の友好都市提携により、両市間で、文化、スポーツ、経済など様々な分野で友好交流を進めていくことになりました。ともに歩むパートナーとしての礎を築いていくためには、市民による交流の推進が欠かせないとの考えから、多くの方々のご賛同を得て、市民交流の中心母体として、2004年11月25日に松山・平澤友好協会を設立しました。



◆ 親善訪問団が平澤市を訪問

松山・平澤友好協会設立1周年を機に、鮎川恭三会長をはじめ当協会役員及び会員等で構成された親善訪問団が、11月25日から27日の日程で平澤市を訪問しました。訪問団には中村時広市長にもご参加いただき、1周年にふさわしく、総勢43名での訪問となりました。平澤市では、宋明鎬(ソン・ミョンホ)平澤市長をはじめとする平澤市関係者からあたたかい歓迎を受けるとともに、今後の交流について有意義な意見交換も行うことができ、実り多い訪問となりました。



10年の歩み

2006年

◆ 松山大学と平澤大学校が学術交流協定を締結

4月28日に、平澤大学校の趙基興(チョ・ギフン)総長が松山大学を訪れ、両大学で学術交流協定の調印式が行われ、教職員・学生の相互派遣、共同研究などを実施していくこととなりました。



◆ 日韓交流セミナー 6回シリーズで開催

平澤市に対する理解や関心をさらに深め、両市のより友好的な関係を築くため、当協会主催の交流セミナーを7月から10月の間で6回実施しました。

会員を対象に、松山東雲短期大学生活科学科の峰弘子教授による「韓国料理」、聖カタリナ大学社会福祉学部の金順姫(キム・スニ)教授による「ハングル講座」を各2回開催。また、公開講座として「日本と韓国 子どもの生活と遊び」と題して、保育士や松山在住の韓国人による日韓の子育ての違いや平澤市の保育園事情などについての意見交換会や、松山東雲中学・高等学校の小泉勇治郎校長による韓国との交流の経験に基づいた講演会「日韓文化の違いあれこれ」を実施しました。



2007年

◆ トーンチャイムグループ すいてん・はーとが平澤市を訪問

トーンチャイムグループすいてん・はーとのメンバー10名が、3月25日から27日の間、平澤市を訪問し、学校訪問やサムルノリ演奏団体との交流を行いました。新韓(シナン)中学校での交流会では、トーンチャイムの演奏を披露したほか、生徒たちに実際にトーンチャイムを体験してもらうなど、和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。

◆ 第1回松山・平澤市民ふれあい交流の開催

運営部員が平澤市を訪問して育んだネットワークを基に、松山・平澤の両市民による「ふれあい交流」が実現し、8月10日から12日の間、「平澤保育施設連合会」と「平澤果樹協同組合」からそれぞれ2名が来松しました。

歓迎会では、尺八とお箏の先生の演奏による「春の海」などを披露しました。また、会員の家庭にホームステイして日本の生活を体験したり、みかん園や保育園の視察などを行いました。

松山まつりでは、青少年交流で来松していた平澤市の中学生とともに、まつやま国際交流センターの「地球人チーム」に加わり、野球サンバを踊りました。



◆ 松山東雲中学・高校ハンドベル部が平澤市を訪問

松山東雲中学・高校のハンドベル部員11名と引率教員3名が、3月25日から30日の間、音楽交流で平澤市の恵(ウネ)高等学校を訪問しました。同校では、軽音楽部、プラスバンド部、伝統芸能(サムルノリ)部との合同演奏会やホームステイを行い、お互いの友好を深めました。

◆ 第2回松山・平澤市民ふれあい交流の開催

応募のあった会員に、8月に松山で交流した潮見地区みかん農園の婦人部の皆さんを加えた合計13名で、9月28日から30日の間、平澤市を訪問しました。

梨が名産の平澤市で梨狩りを体験し、美味しくいただきました。また、お互いの伝統芸能を紹介し合う文化交流を行い、平澤からは、園児によるサムルノリや市民による韓国の歌や踊りが披露され、松山からは、NPO法人「芸術・芸能ボランティアグループ 蘭燈」が「さくら」「月に寄せる日本のうた」「春の海」などを披露しました。宿泊は、ホテルステイチームとホームステイチームに分かれ、韓国の夜を楽しみました。



10年の歩み

2008年

◆ ハングル会話講座の開催

「留学生と韓国語で会話をして交流したい。」「韓国からの観光客をガイドしたい。」「平澤に旅行した時に韓国語でコミュニケーションをとって、市民レベルでの交流をしたい。」という思いから、留学生を講師に招いての「ハングル会話講座」がスタートしました。

2月から3月初旬までの第1回では、講師を留学生と、松山市で研修中の平澤市職員にお願いしました。会話のレベルに応じて7つのグループに分かれ、1グループ5名から7名の少人数制としたため、初心者から上級レベルの各グループが和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で会話をはずませ、参加者からも好評でした。

第2回は、7月から8月初旬の土曜日の6回で開催し、講師を留学生にお願いしました。参加者は34名で、自己申告によるレベル分けで7グループ編成としました。ハングル習得の目的を持った人たちの熱い思いがひしひしと伝わり、熱気のある講座となりました。



◆ 韓日友好交流協会が平澤市に設立

当協会の交流のパートナーとなる「韓日友好交流協会」(現在の「平澤国際交流協会」)が平澤市に設立し、4月28日に平澤市役所で設立総会が開催されました。

設立総会には、宋明鎬(ソン・ミョンホ)平澤市長をはじめ、関係者約200名が出席し、当協会から、村上愛二郎事務局長と運営部2名が出席しました。また、李鍾福(イ・ジョンボク)会長をはじめ役員の方々と、交流の展開について協議しました。



◆ 韓日友好交流協会との交流事業開催

8月10日から12日の間、韓日友好交流協会の役員10名が来訪し、当協会の会員と交流しました。歓迎夕食会には、総勢48名が参加し、「芸術・芸能ボランティアグループ蘭燈」による琴と尺八の演奏が披露され、素晴らしい演奏に会場全体が酔いしれました。また、韓日友好交流協会の金美泳(キム・ミヨン)副会長からは、飛び入りで歌のプレゼントをいただき、終始和やかな雰囲気のなか、親睦を深めました。

松山まつりの野球サンパでは「松山・平澤友好協会連」を単独で結成しました。韓日友好交流協会の役員もサンパ当日の最終練習から参加し、女性は浴衣を着て、総勢約50名が大道から千舟町を練り歩きました。野球サンパのリズムに乗って、楽しく踊りながら交流することができました。



10年の歩み

2009年

◆ メッセ・まつやま 2009に参加

1月31日、2月1日に、アイテムえひめで、「メッセ・まつやま2009」が開催され、平澤市からは、国際交流担当の職員が来松し、松山市の姉妹・友好都市の紹介ブースやステージで平澤市の紹介をしていただきました。また、今回初めて当協会の会員もブースでの案内係として協力し、平澤市職員との交流や平澤市をより知る機会となりました。



◆ 松山在住韓国人との交流 “마당”を発足

マダンとは、韓国語で‘庭’を意味する言葉で、松山で暮らす私たちと、松山に住んでいる韓国人、松山を訪れる韓国人の方たちとの交流を目的としています。

第1回は、5月16日に、E P I Cで、韓国各地の大学から松山の大学に留学中の学生と、留学中に体験したい日本の文化や、私たちの知りたい韓国の話など、それぞれの思いを交換しました。

第2回は、5月30日の定期総会の際、韓国の伝統料理を出席者に召し上がっていただきました。料理の指導を松山東雲短期大学の峰弘子教授にお願いし、韓国人留学生と、サンパブ(野菜で包んで食べるごはん)、ファジョン(花びら餅)、ヤクシク(韓国風おこわ)の3品の韓国料理を作りました。「こんなに見た目にも美しい、韓国の伝統料理を初めて食べました。」と言う人もいほど好評でした。

第3回は、6月20日、手作りのお弁当を持ち寄り城山ハイキングを実施しました。登山好きな韓国の留学生たちは、軽々と登っていき、楽しいひとときを過ごしました。



～松山・平澤友好協会設立5周年記念事業～

◆ 友好都市提携 5周年記念イベントの開催

松山市と平澤市の友好都市提携5周年に先立ち、9月27日に、大街道のアートステーション「おいでんか」で記念イベントを開催しました。多くの市民に当協会の活動を知ってもらうことを目的に、パネル展示「5周年のあゆみ」や韓国からの留学生との「簡単ハングル会話」、韓国菓子を食べながら映画を鑑賞する「シネマカフェ」など楽しい催しを行いました。当日はあいにくの雨でしたが、アンケートに答えるときじ引きで韓国グッズが当たるとあって、多くの人が答えてくれました。中でも、特賞として「松山～ソウル往復航空券」をアジア航空から2本も提供してもらい、当たった瞬間は来場者の歓声で最高に盛り上がりました。



◆ みんなの生活展2009にブース出展

友好都市提携5周年記念事業の一環として、10月17日、18日の「みんなの生活展2009」に、松山・平澤友好協会ブースを出展しました。これまでの交流のあゆみを記載したパネルや平澤市からの寄贈品などの展示、平澤市を紹介する映像の放映など、平澤市をさらに知ってもらう啓発活動を行いました。また、留学生や運営部の協力で、ハングル会話体験や、アンケート(韓国への関心度)を実施し、韓国菓子を味わいながら楽しい雰囲気の中で平澤市の紹介ができました。中でも、韓国民族衣装の試着体験は好評で、色鮮やかな韓国の民族衣装を試着した人は、満面の笑みでカメラにおさまっていました。



◆ 聖カタリナ大学・平澤大学校 第3回日韓福祉フォーラムの開催

聖カタリナ大学の主催による第3回日韓福祉フォーラムが10月17日に開催されました。「日本と韓国における社会的格差の現状と課題」と題し、平澤大学校社会福祉学部教授で、韓日友好交流協会会長でもある李鍾福(イ・ジョンボク)氏が、平澤市の福祉の現状と方向性について日本語を交えて発表しました。また、聖カタリナ大学人間健康福祉学部の永嶋講師が「高齢加算の廃止と格差社会」と題し、また同学部若満助教は「日本の孤独死の現状と課題・高齢期の社会的格差」と題しそれぞれ発表しました。



10年の歩み

2010年

◆ メッセ・まつやま2010に参加

1月23日、24日に、アイテムえひめ大展示場で、「メッセ・まつやま2010」が開催されました。姉妹・友好都市ゾーンでは、平澤市とともに松山市の姉妹都市のサクラメント市（アメリカ）、フライブルク市（ドイツ）を紹介するパネルやクイズコーナーなどが設置され、平澤市からも市職員2名と、韓日友好交流協会の4名が来松しました。平澤ブースでは、来松した6名と当協会運営部員の協力のもと、チャプチェ、チヂミ、トッポギ、韓国海苔、韓国菓子などを来場者に試食してもらい、希望者には実際に料理を体験してもらうなど、多くの来場者に本場の韓国家庭料理を味わっていただくことができました。また、休憩中にはサクラメント姉妹都市協会の関係者、フライブルク市職員と平澤市職員らで、韓国料理を味わいながらひと時の交流タイムがあり、とても盛り上がりました。



◆ 交流親善訪問団の平澤市訪問 （松山東雲高校・恩恵高校姉妹校提携）

2009年に松山市と平澤市の友好都市提携5周年、そして、松山・平澤友好協会設立5周年を迎え、平澤市への親善訪問を予定していましたが、新型インフルエンザの影響で残念ながら中止となりました。翌年、1年越しの念願が叶って、11月8日、9日に、会員10名が平澤市を訪問しました。松山東雲学園の山崎文雄理事長夫妻、松山市職員と一緒に平澤市役所を訪問し、平澤市の李完熙（イ・ワニ）副市長と対談後、恩恵（ウネ）高校で、松山東雲高校と恩恵高校との姉妹校調印式に出席しました。

韓日友好交流協会の皆さんとの交流では、歴史博物館を訪問した後、カフェの厨房でキムチ・チャプチェ・キンパブ・プルコギなどたくさんの韓国料理を教えていただき、夜は、チムチルバン（サウナ）で、旅の疲れと汗を流しました。



2011年

◆ 韓国文化体験ツアーの実施

9月20日から23日の間、韓国文化体験ツアーを実施し、10名が参加しました。釜山では、ジャガチ市場を訪れ、松山で見る蛤やムール貝の何倍もある大きさに目を見張りました。新羅時代の都があった慶州は、世界遺産に指定されており、いろいろな文化財が残っています。暗くなって訪れた雁鴨池（アナプチ）の夜景はとてすばらしく、往時の王朝の繁栄が偲ばれました。

ソウルの韓国伝統飲食研究所では、全員韓服を着て、先生のお手本を見せていただいた後、3グループに分かれてトックケーキと松片（ソンピョン）を実習しました。ふんわり蒸しあがっているものは、口どけがよくおいしかったです。全員修了証をいただき、日本に韓国の伝統文化を広める役を仰せつかりました。

研修後は、伝統家屋の立ち並ぶ北村を訪問。メドゥプ（組みひも）や刺繍、絵画などの韓国伝統芸能を紹介する建物が並んでいて、歴史の重みを感じられました。



◆ ふれあい交流ツアー ～しまなみと瀬戸内の 産業を訪ねて～の実施

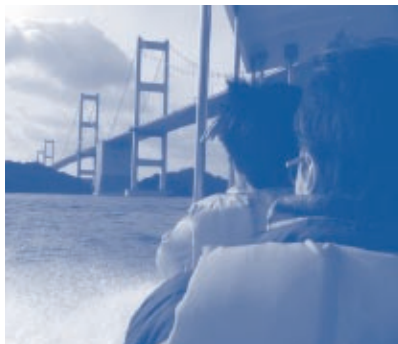
12月18日に、ふれあい交流のバスツアーを実施し、留学生ら14名と会員等日本人17名が参加しました。

西条市のアサヒビール園では、ビールの巨大貯蔵タンクや製造ライン等の施設を見学。また、試飲コーナーで飲む新鮮な生ビールは格別においしかったです。

その後、急流観光船に乗り、来島海峡大橋や自然の織り成す素晴らしい景観を海から眺めることができました。

タオル美術館では、クリスマスの時期ならではの装飾が施してあったこともあり、女子留学生に人気でした。

バスでの移動中はゲームをしたり、同席者と韓国語を交えながら会話を楽しんだりして親睦を深めることができました。



10年の歩み

2012年

◆ 平澤市代表団の松山市訪問

平澤市の「平澤港マラソン大会」と松山市の「愛媛マラソン」を通じた交流を図るため、2月3日から5日の間、金善基（キム・ソンギ）平澤市長や平澤港マラソン大会の組織委員会関係者の代表団11名が来松しました。一行は愛媛マラソンを視察するとともに、2名が走者として参加しました。



◆ おもてなしボランティア

平澤市からの代表団の来松に合わせて、松山空港で「おもてなしボランティア」を実施しました。

当協会の運営部員が、ハッピーを着て愛媛みかんのジュースとともに当協会の活動案内チラシを配布し、韓国からの来松を歓迎しました。



◆ 韓国大学生との交流

松山国際交流協会が実施する「2012夏季日本体験集中プログラム」（8月19日～8月31日）に、当協会の運営部員が協力し、韓国の大学生との交流会を持ちました。

運営部員が所有するログハウスの前庭でのバーベキューや室内でのゲームなど、日・韓・英語での交流を楽しみました。また、日本の夏の風物詩である「そうめん流し」や「かき氷」は韓国の大学生に大変好評で、夏の夜のひと時、とても楽しい交流の時間を持つことができました。



2013年

◆ 平澤港マラソン大会の応援

当協会の事務局長と運営部長の2名が、10月12日に平澤市を訪問し、松山市からのマラソン選手団との交流や、平澤市の平澤国際交流協会の皆さんとの再会で親交を深めました。マラソンは参加するだけでなく、応援をする人たちも感動を共有できると感じました。



◆ マダン ふれあい交流会の実施

会員の親睦を深めることを目的に、韓国からの留学生や松山に在住し韓国語講師・翻訳を中心に活躍されている張英淑（チャン・ヨンスク）先生と一緒に、6回にわたり、野山の散策、韓国の食文化体験など韓国語を交えて楽しみました。



第1回 ～松山城に 도전! (チャレンジ)～ (5月26日)
松山城山頂広場までの約1時間、登山を楽しみながら韓国語で会話したり、写真撮影などして参加者と親睦を深め、楽しいひと時を過ごしました。

第2回 ～前期語学研修を終えて・参鶏湯に 도전! (チャレンジ)～ (7月7日)
留学生と一緒に参鶏湯を作り楽しく過ごしました。

第3回 ～鹿島めぐりに 도전! (チャレンジ)～ (9月8日)
鹿島散策では、展望台に上がると素晴らしい大パノラマに感動しました。

第4回 ～総合公園に 도전! (チャレンジ)～ (10月27日)
韓国語でおしゃべりをしながら頂上まで登ると、松山城が綺麗に見えました。

第5回 ～後期語学研修を終えて・韓国料理に 도전! (チャレンジ)～ (12月1日)
鶏肉と野菜をしょうゆベースのたれ（ヤンニョン）で煮込むチムタク作りを通して韓国の食文化を学びました。

第6回 ～キムチ作りに 도전! (チャレンジ)～ (2014年1月19日)
張先生の指導を受けながら楽しくキムチを作ることができました。

◆ 平澤大学校訪問

当協会の語学研修も10年目を迎えることから、留学生たちとの会話を楽しんできた韓国語を、平澤市の大学で学習したいと考え、平澤大学校を訪問し打診しました。その結果、大学が行っている短期語学留学の「ミニミニ版語学コース」を実施していただけることとなりました。



10年の歩み

2014年

◆ 韓国観光高校修学旅行生のホームステイ受入

4月の新学期の始まりとともに韓国から可愛い女子高校生2人が我が家にやって来ました。京阪神の観光後、松山入りしたので、少し疲れていたようですが、人懐っこい笑顔と上手な日本語で「よろしくお願ひします。」と言ってくれた弾けるような声を今でも覚えています。

夕食をとって2～3時間楽しく韓国語や日本語でお喋りしながら過ごしました。3人の共通点は音楽でした。ピアノの弾ける学生とは、演奏を聴きあったり、連弾したり。もう1人の学生には、韓国伝統楽器チャンゴを教えてもらいました。韓国の友人からもらったチャンゴがこんなところで役に立っています。

朝は、急いで食事を済ませ、集合場所へと向かいました。名残惜しかったのですが旅行の無事を祈り、2人を見送りました。

数日後、韓国では修学旅行の学生達を乗せた船の悲惨な事故がありました。心配している私の気持ちが伝わったかのように、2人から「無事帰国しました。ホームステイが楽しかったです。」という嬉しいメールが届きました。それ以来、メールの通信が続いています。短い時間でしたが、2人のイモ(おばさん)になれたようです。(H・T)



◆ ハングル講座

〈前期ハングル講座〉開催日/6月8日(日)15日(日)22日(日) 場所/コムズ3階調理室 受講者数/22名

〈後期ハングル講座〉開催日/10月19日(日)26日(日)11月9日(日) 場所/コムズ3階調理室 受講者数/24名

愛媛大学から5名、聖カタリナ大学から1名の留学生を講師として迎えました。受講生は会社員、自営業、主婦、退職された方などさまざまですが、みんな韓国に興味をもち言葉を学びたいと集まった方々です。初めて松山に来た留学生は、こんなにもハングルの学びたい人がいるということに、驚きをもって感じたのではないかと思います。

講座では、普段使っている言葉で講師に作文を作ってもらい、それに基づいて聞き取りをしたり、ロールプレイをしたりして、グループ別に会話を中心とした勉強がスタートしました。毎回、時間があつという間に過ぎてしまいましたが、テキストでは得られない生の韓国語に触れられる絶好のチャンスでした。休憩時には、韓国風の簡単なお菓子を作って、食べながら楽しくおしゃべりしました。

こんな交流の場があると、韓国ともっと仲良くなり、韓国がより身近に感じられるのではないかと思います。(T・E)



◆ 交流会マダン 愛媛の良い所発見列車の旅～八幡浜を遊ぼう～の実施

11月16日に、「愛媛の良い所発見列車の旅～八幡浜を遊ぼう～」をテーマに協会会員や韓国からの留学生など29名で八幡浜に行きました。天候にも恵まれ、八幡浜へ向かう列車の窓から見える秋の景色は最高でした。韓国の留学生にはチームごとに1人ずつ入ってもらい、韓国や韓流の話で盛り上がり、お互いの心が通じ合うようになりました。八幡浜に到着後、じゃこ天の調理体験をし、港での日曜日、塩バンで有名なパンメゾン、新町商店街を散策しながら、交流を深めました。

松山・平澤友好協会の一人ひとりの韓国に対する愛着の深さには驚くばかりです。その情熱と愛情に韓国人の一人として心から感謝しています。今後も変わらず韓国文化を愛していただき、私も日本文化に関心を持ってお互い理解を深めたいと思います。(J・Y)



思い出の記録 ー会員・留学生からの投稿ー

運営部によって行われる半期に一度のハングル講座、年々進化していくマダン、2年に一度行われる韓国研修旅行等々。どれをとっても満足できるものでした。中でも韓国研修旅行は、韓国伝統料理を習ったり、平澤大学に短期語学留学したり、ホームステイしたり、市民レベルで韓国の文化や人を知り、理解する素晴らしい機会だったと思います。

私は今、運営部のお手伝いをさせていただいています。諸先輩方の惜しみないボランティア精神と韓国を楽しみたいと思う遊び心から、このようなイベントが生み出されているのをいつも目の当たりにしています。このエネルギーが充実した10年にしたのでしょうか。

私も気軽に入会しましたが、今ではいろいろな世代の人達と一緒に勉強し、感動するこの空間が大切な時間になっています。

(樋口 孝子)

私がこの活動に参加させていただくようになって、約1年半になります。最初は「韓国語を勉強したい!」という気持ちで参加しましたが、活動を通じて韓国語だけでなく、文化や習慣など多くのことを学ばせていただいております。

私が一番好きな活動はハングル講座です。私のつたない韓国語を、留学生の先生が理解してくれて、小さな疑問にも優しく答えてくださいます。授業の合間には、みんなで韓国風のおやつを作って食べる時間もあり、毎回楽しみにしています。実際に韓国の方と交流することで、韓国への興味も増し、さらに韓国のことが好きになりました。また、留学生のみなさんから日本に対する好意も感じ、嬉しくなります。

これからも松山に来てくださるたくさんの韓国の方々和交流していきたいです。

(白石 愛)

松山・平澤友好協会に入会してまだ2年足らずですが、韓国と韓国語が好きでたまらない私には大切な空間です。

入会して最初に参加したのがハングル講座です。先生の言葉をなかなか聞き取る事ができない上に自分の言いたいことも上手く韓国語で話せなくて毎回落ち込んでいますが、聞き取れる単語が一つずつ増えていくのは嬉しいです。講座の途中で作る韓国のおやつも楽しみです。

また、韓国の中学生達との交流会や留学生達との日帰り旅行も簡単な日常会話ですが生の韓国語に触れることの出来る有意義な時間だと思います。

そして、何より昨年8月に4泊5日で行われたプチ留学に参加出来たことが嬉しかったです。平澤大学校での授業体験、2人1組でのホームステイ、地元の人でしかわからないお店での食事などツアーや個人ではまず経験出来ない内容ばかりで私には1つ1つが感動の連続でした。自由行動の時に見た字幕なしの映画もわからないなりに面白かったです。

一緒に参加したみなさんとの時間もとても楽しくいい思い出が出来ました。

これからも、参加できる行事があればどんどん参加してもっと韓国と韓国語を知りたいと思います。

(菊池 敦子)

私は、韓国語に興味があり、3年前に入会しました。入会の一番の目的は、韓国語講座に参加して、韓国語を習うことでした。友好協会では、前期と後期に3回ずつ、1回3時間の韓国語講座があります。この講座はレベル別に少人数で行われるため、とても効率よく韓国語が学べる講座です。講師の先生は、韓国からの留学生のため、ネイティブの韓国語が聞けることと韓国の情報が生き生きと伝わってくるという点も魅力です。

また、講座で知り合った方々といろいろな情報交換もでき、自分自身の世界も広がったように感じます。

昨年の11月16日には、汽車に乗り八幡浜までの日帰り旅行もして、会員の方々との親睦も深めました。一緒に八幡浜の町でじゃこ天作りを体験したり、ちゃんぽんを食べたり、町内散策を楽しみました。留学生が商店街の看板の漢字や汽車の中の電光掲示の案内をすらすら読むのには驚きました。私も彼らのように韓国語がすらすら読めるようになりたいと強く思いました。

私は友好協会の活動を通して、韓国の文化に親しみつつ日本の文化についても再認識しています。今後も楽しく有意義な活動を続けていきたいと思っています。

(棟田 栄子)